

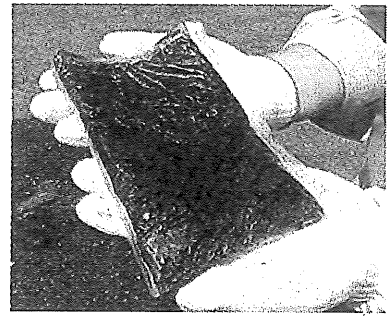
中日本ハイウェイ・メンテ北陸ら

# ポットホール応急補修

## 長さ0.1—1メートルに対応

NEXCO中日本のグループ会社、中日本ハイウェイ・メンテナンステ北陸と東亜道路工業は、アスファルト舗装の表面に生じる長さ約0.1—1.0メートルの穴(ポットホール)を、天候に左右されず補修できる応急補修材「TOKE(溶け)・パック」を開発した。写真。

ポットホールは、常温のアスファルト合材(常温合材)を不織布で梱包した小袋状の材料などで応急的に補修して



いる。しかし、施工時、事前に散布する乳剤(接着剤)が、雨天時に流れてしまうことなどが課題となっている。

今回開発した製品は、常温合材の包装材に水溶性フィルムを使用した。晴天時はポットホールに散水した後、製品を敷き並べ、さらに散水して踏み固める手順で施工する。雨天時は散水不要。フィルムは水に触れると溶けるため、接着剤をまく必要がなく、1分ほどで補修が完了する。

これまでに約50カ所に試行導入している。今後は他の高速道路会社や地方自治体などへの販売を促進する。価格は1箱(1袋500g×20袋入り)5200円(税別)。

2019年1月24日 建設通信新聞